

竹中工務店と創る 超スマートシティ

 TAKENAKA



超地球化。

植物や生物までつながるIoT。

AIやロボットの人情。

デジタルで作られた5つ目の季節。

今までになかったモノ、感情、風景が全く新しい世界を創り出す。

今のわたしたちにとっての便利や快適を超えた、

あらゆる生命に対して多様性のある、しなやかな都市。

それが、超スマートシティ。

人と人、地球と人、生きることと働くこと、都市と地方、バーチャルとリアル。

都市化によって分断されたモノがつながり、テクノロジーの力で融け合う。

都市化から地球化、そして超地球化へ。

人を超えて。

建物を超えて。

想像を超えて。

新しい地球を創造する。





新しい自然を建てる。

テクノロジーや経済が発達して、世の中は便利になりました。

交通が発達し、遠くの人と会えるようになり

やがて、通信が発達し、人に会わなくても済むようになった。

これから訪れるデジタルツインが実装されたSociety5.0では

人は誰かに会わなくても、話さなくても、

好きなモノや情報が手に入るかもしれない。

それでも、私たちは一期一会の出会いや、

まちが育むストーリーを大切にしていきたいと思っています。

コミュニティが生まれ、人々が物語を創り出す。

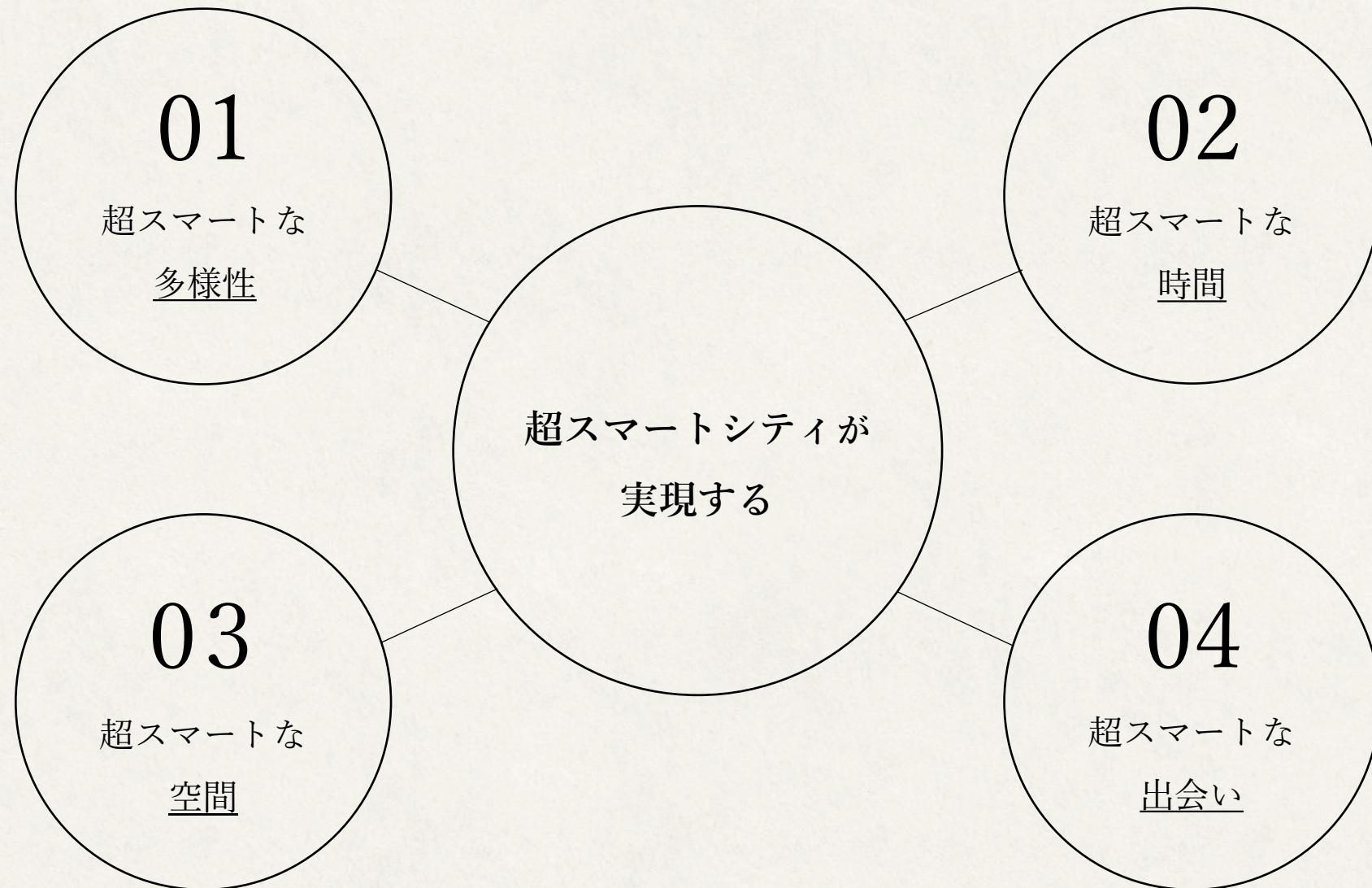
それが、「まち」がもつ最大の機能だから。

竹中工務店は、人だけでなく植物や動物も含めたあらゆる生命を中心とした運命共同体としての超スマートシティを目指しています。

AI、IoT、XRといったテクノロジーを活用して水、空気、植物などのいわゆる自然だけでなく、季節、人情、優しさ、

データやエネルギーまで含めた

人が人間らしく生きるための、新しい自然環境を創造していきます。



超スマートな多様性

01

一人ひとりのわがままが創る 超スマートシティ

私たちが目指す超スマートシティは
誰一人取り残さない、多様な自己実現を可能にするまちです。
人が都市のインターフェイスによって縛られず、思い思いの暮らしを実現できる。
「こんな暮らしをしてみたい。」「こんな働き方できたらいいな。」
そんな誰かのわがままが、テクノロジーで実現され、
そこからまた新しい物語が生まれる。
便利で機能的なまちに用意されたストーリーを生きるのではなく
一人ひとりが語ることで、まちが創られていくます。



超スマートな時間 ————— 02

暮らしの余白をデザインする

超スマートシティ

私たちが目指す超スマートシティは

1日が27時間にもなるような、余白のあるまちです。

仕事や趣味のためにどこかへ移動する必要はなくなり、人々が得る自由な時間。

人生の意味を考えたり、ただダラダラと過ごしたって良いこの余白が

きっと本当の豊かな暮らしを実現します。

人間が生み出した「時間」という概念に、いつの間にか管理されていた私たちの暮らし。

時間を超えて誰かと繋がったり、別の季節を楽しむことも可能な

超スマートシティが、豊かな時間を再び人の手に取り戻します。



超スマートな空間

03

「場所」や「距離」から解放される

超スマートシティ

私たちが目指す超スマートシティは

都会でもあり、田舎でもあるまちです。

都市なのに海や山が身近にあり、キャンプをしながら働くこともできます。

住宅やオフィスは不動産から可動産となり

遊牧民族のように移動しながら暮らすことだって可能です。

医療やエンターテインメントも距離や空間を超え

「場所」に縛られない暮らしが、様々な働き方や家族のあり方、生き方を可能にします。



超スマートな出会い —————

04

機能的であり、偶発性をも持った

超スマートシティ

私たちが目指す超スマートシティは

データやAIの技術で最適な情報を最適なタイミングでレコメンドしてくれます。

渋滞や混雑もなく、あらゆるものが自動化され、テクノロジーによって

災害や犯罪からも守られている便利で安全なまちです。

データが風景や自然のように存在し、誰がどこで何に困っていて、

自分がどんな貢献ができるかがわかる。

それは、家族や血縁を超えた優しさや、新しいコミュニティを生み

その一期一会の出会いや、人や新しい自然が生み出す物語が

便利だけどそこにしかないまちを創ります。





様々なテクノロジーが 越境しあうまちづくり

リモート会議が増えて、部屋は人に会う時の服のような意味を持ちました。
相手に合わせて場所を変えたり、服を着替えるように背景を変えたり。

自動運転が実装されれば、車は空間としての意味を持ちます。

移動の時間に仕事をしたい人にとってはオフィスに、
熟睡して過ごしたい人にとっては寝室に。

人にとっての価値や意味が、これまでと大きく変わるSociety5.0。
医療や教育、流通やモビリティー、ゲームやエンターテインメント。
様々な役割や技術が越境しあって、超スマートシティは共創されていきます。
私たちは様々なサービス、デベロッパー、メーカーの皆様と、
そのまちに暮らす人たちと共にまちづくりを推進していきます。

竹中工務店では、1971年に掲げた「設計に緑を」という言葉を大切にしてきました。この緑は単に樹木や草花を意味するにとどまらず、自然・故郷・季節・人情などの言葉のもつメンタルな領域を含めて、豊かな環境の創造を意味しています。また、2010年には「人と自然をつなぐ」という環境メッセージ・コンセプトを制定しネット・ゼロエネルギービルの実施など、2050年に向けた具体的な長期目標を定めました。

人と人、地球と人、生きることと働くこと、都市と地方。都市化によって分断されたモノが再びつながり、さらにリアルとバーチャルが融け合う未来。竹中工務店は都市化から地球化、そしてテクノロジーの力を使った「超地球化。」をコンセプトにあらゆる生命を中心とした運命共同体としての超スマートシティを目指しています。AI、IoT、XRといった技術を活用して、今のわたしたちにとっての便利や快適を超えた人、自然、データ、エネルギーまで含めた新しい自然環境を実現していきます。

